

アジア土木学協会連合協議会（ACECC）第 28 回理事会参加報告：第 8 回アジア土木技術国際会議日本開催の決定

2015 年 3 月 27 日～29 日、第 28 回アジア土木学協会連合協議会(ACECC)理事会がバングラディシュ・ダッカにて開催された。ACECC の主な活動内容については、土木学会誌第 100 巻第 5 号 128-129 ページを参照されたい。

本会議では、日本からは主に下記 2 点について提案・報告等を行った。

- ①第 8 回アジア土木技術国際会議（8th CECAR）招致立候補プレゼンテーション
- ②日本が主導する新たな TC の設立提案

8th CECAR は 2019 年に開催予定である。同年は東京オリンピック・パラリンピックの前年であり、直前の準備状況を観られる絶好のタイミングであるため、国内外の参加者にとっても魅力的な年と言える。また、東日本大震災から 8 年を経過し、強靱かつしなやかになった日本の姿をみせることはアジアの国々にとって有意義であると考えた。

立候補プレゼンテーションは、廣瀬次期学会長による挨拶に始まり、日下部 ACECC 日本代表が、日本が目指す CECAR について発表された。プレゼンテーションでは、ACECC はアジアの社会資本整備の促進を実現すべく、各国の Decision Maker や金融機関との協働関係を構築するユニークな組織であり、CEACR はそのヴィジョンを発信・共有するユニークな国際会議とすべきであることが力強く主張された。また、その実現のために日本は産官学の総力を挙げた実施体制を整え、参加者の立場や世代に幅広く対応するプログラムの実現を目指すことを約束した。上記メッセージを通し、日本が魅力的な候補であることが受け入れられ 2019 年の 8th CECAR 日本開催が承認された。



廣瀬次期会長（中央）による冒頭挨拶

土木学会では、アジア地域での防災に関する取組みについて、これまで 3 回にわたって円卓会議を開催し、議論を主導している（RTM on Disaster Management (Asian Board Meeting)）。この取組みについては、国連防災世界会議や「日本防災プラットフォーム」に対する評価が高まる中、日本が主導することが引き続き期待されている。



日下部 ACECC 代表（右）による立候補プレゼンテーション

今回の理事会においては、山口栄輝委員長（九州工業大学）が本取組みを ACECC の新たな TC 活動の一環として進めることを提案し、承認された。次回の理事会においては、Chair の選任や活動方針等について報告する予定である。

なお、次回第 29 回理事会は、2015 年 10 月に韓国の群山にて開催予定となっている。



参加者全体写真

【記 ACECC 担当委員会 幹事長 中野雅章（日本工営）】